

アコーデイス、DX人材育成

社内7000人研修80時間

外販も
視野

AKKODiS(アコーデイス)コンサルティング(東京都港区、川崎健一郎社長)は、デジタル変革(DX)を進めるための人材を育成する社内研修を2月に始める。デジタル技術を使って社内や法人顧客の課題を解決するのが目的。エンジニアのほか、営業職として間接部門などに所属する社員、約7000人が研修の受講対象となる。1年目は1000人の受講を目指し、早ければ2025年内の外販を計画する。

研修は80時間ほどが提供するサービス「パワープラットフォーム」で、マイクロソフト「パワープラットフォーム」や「コパイロット」の基本を学ぶ。パワープラットフォームフォームでは例えば、アクセス権限への理解や、業務の自動化をするための方法、そしてデータの可視化に必要な知識を習得する。



社内研修を充実させ、自社内や顧客のDXを促す

また生成人工知能(AI)を用いた業務補助サービスのコパイロットでは、AIの原理のほか、コパイロットへの命令文の書き方などを学ぶ。講師はアコーデイスコンサルティング社員が務める。

従来は、個別のテーマごとに学んできた。体系立てた研修を始めることで成果を生まれやすくし、課題解決事例を示すことでDXへの機運を醸成する狙いもある。研修は対面やオンラインで行う。まずは営業職や経理・総務といった間接部門の社員、そして技術者のリーダー層を中心に受講を促す。

研修に加えて、社員が疑問点を教え合う環境をオンラインに引き続き設け、デジタル技術への理解を一段と深める。

同研修は企業向けに外販を始め、業種や職種を問わず幅広く提供する方針。社内だけでなく社外のDXも後押しする。